

動物実験計画書

城西大学 学長 殿

提出日：平成 年 月 日
受取日：平成 年 月 日

A 管理者 (部局長等)	(所属名・職名) (氏名) 印
B 動物実験責任者	(所属名・職名) (氏名) 印 (連絡先) TEL : FAX : E-mail :
動物実験実施者 (全員を記入すること。)	(所属名・氏名) (連絡先) TEL : FAX : E-mail :
C 研究課題名 1 部分開示 2 全面開示	1 新規 2 継続 (平成 年度 承認番号:)
研究目的 (期待される成果) 1 部分開示 2 全面開示	
研究計画と方法 1 部分開示 2 全面開示	1 材料の採取 2 薬剤等の投与 3 外科的処置 4 系統維持・繁殖 5 行動観察 6 その他 () 1 実験全体で使用する動物の必要数 () 2 算出根拠 ()
研究内容を全面開示とした理由	

D

実験実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (か月間)				
動物飼育場所	建物名 () 飼育室 ()				
実験実施場所	建物名 () 実験室 () 特殊実験室 ()				
使用動物	(動物種)	(品種・系統)	(性別)	(匹数)	(入手先)
	遺伝学的保証		1 有	2 無	
	微生物学的保証		1 有	2 無	
動物実験等が必要な理由	1 代替手段がない 2 代替手段の精度が不十分 3 代替手段の経費が過大 4 その他 ()				
安全管理上注意を要する点	1 無 2 有 (1) 病原微生物 () (2) 有害物質 () (3) 組換えDNA () (4) その他 ()				
想定される苦痛のカテゴリー	A B C D E (Scientist Center for Animal Welfare の動物実験の苦痛分類に準拠した判断に基づき記入すること。)				
動物の苦痛の種類と軽減法	1 軽微な苦痛の範囲内のため、特に処置を講じる必要はない。 2 麻酔薬、鎮痛剤等の薬剤を投与する。 薬剤名 () 投与量 () 投与法 () 3 実験の都合上やむをえず24時間以上の保定・拘束をする。 4 重度のストレス及び疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。 5 耐えがたい苦痛を伴う場合は、適当な時期に人道的エンドポイントを考慮する。 () 6 その他 ()				
安楽死の方法	1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名 () 2 炭酸ガス 3 その他 ()				

E	動物実験管理委員会 記入欄	予備判断			
		動物の数	A	B	C
		動物の苦痛	A	B	C
		その他	A	B	C
		A：適切である		C：十分な審査が必要である	判断日：平成 年 月 日

F	動物実験委員会 記入欄	審査結果	適切	不適切	審査日：平成 年 月 日
		意見			
	学長の承認欄	本実験計画を承認します。			
		承認日：平成 年 月 日 (有効期限：平成 年 月 日)			
		承認番号：第		号	城西大学 学長

- (注) 1 新規に実験を開始する場合又は継続して実験を行う場合には、年度ごとに提出すること。
2 該当する欄，文字又は番号に○印を付すこと。